

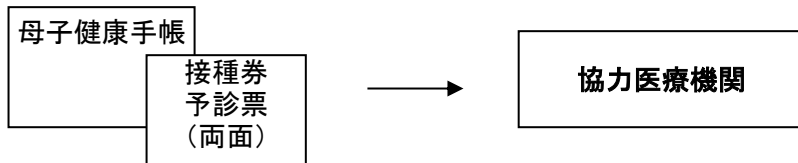
予防接種の種類について

予防接種名	接種時期・回数	
BCG	1歳までに1回接種	
五種混合 ジフテリア・破傷風 百日咳・ポリオ ヒブ	I期 初回	20～56日間の間隔をあけて3回接種
	追加	初回接種（3回）終了後12～18か月の間に1回接種
MR 麻しん風しん混合	I期	生後12～24か月の間に1回接種
	II期	小学校就学前の1年間に1回接種
日本脳炎	I期 初回	6～28日間の間隔をあけて2回接種
	追加	初回終了後1年あけて1回接種
小児肺炎球菌 感染症	<u>*接種開始年齢により回数は異なります</u>	
	接種開始時 生後2～6か月	(初回) 27日以上の間隔をあけて3回接種 (追加) 初回終了後60日以上あけて、生後12月に至った日以降に1回接種
	初回接種開始 生後7～11か月	(初回) 27日以上の間隔をあけて2回接種 (追加) 初回終了後60日以上あけて、生後12月に至った日以降に1回接種
	初回接種開始 1歳	60日以上の間隔をあけて2回接種
水痘	1回	生後12～36か月になる前日までに1回
	2回	1回目終了後、3か月以上あけて36か月になる前日までに1回
B型肝炎	1回	生後2か月以降に1回
	2回	1回目の接種から27日以上の間隔をおいて1回
	3回	1回目の接種から139日以上の間隔をおいて1歳になる前日までに1回
ロタウイルス	初回接種開始生 後14週6日まで	飲むワクチンで2種類あります。効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なります。途中からワクチンの種類を変更することはできませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。

予防接種の受け方について

○接種方法 すべて個別接種で、協力医療機関で接種します。

- ①事前に協力医療機関（接種券・予診票に記載）に電話し、予約をします。
- ②接種券・予診票に必要事項を記入します。
- ③接種券・予診票と母子健康手帳を持参し、医療機関へ受診、接種をおこないます。

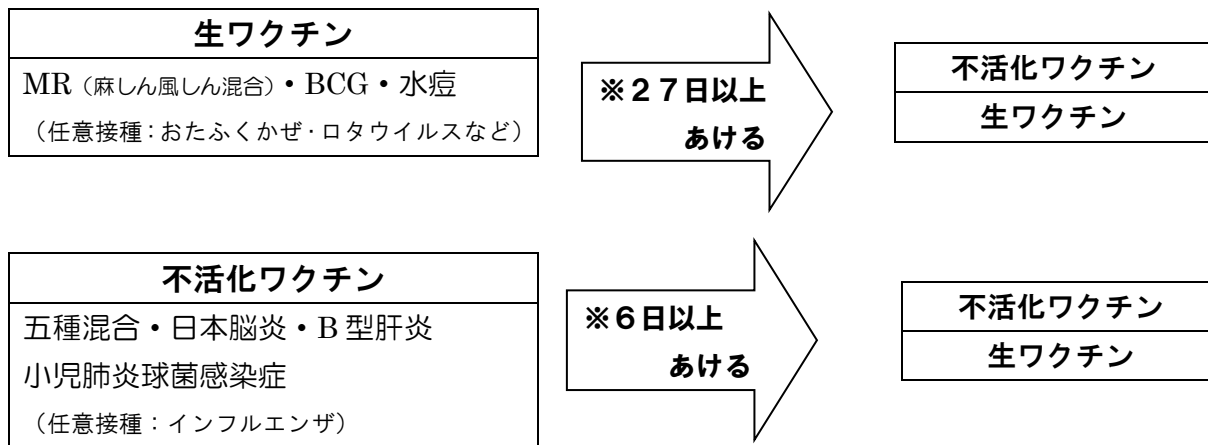


各予防接種との接種間隔

(1) 異なった種類のワクチンを接種する場合

予防接種で使うワクチンには、生ワクチンと不活化ワクチンがあり、異なった種類のワクチンを接種する場合に間隔を守ることが必要です。

- 生ワクチンは、生きた病原体を弱めたもので、接種することで、からだに軽く感染させ、免疫をつくれます。
- 不活化ワクチンは、病原体を殺し、免疫に必要な成分だけを取り出したものです。



※例) 月曜日から次の月曜日（6日以上）、あるいは4週間後の月曜日（27日以上）に接種できます。

(2) 感染症にかかった後の予防接種間隔について

感染症にかかった場合、予防接種を受ける際には、治ってから1～4週間程度の間隔を開ける必要があります。（間隔は感染症によって異なります）

- 発症直後にワクチンを接種しても効果は期待できません。

感染症	治癒後の間隔
手足口病・伝染性紅斑・突発性発疹・かぜ	1～2週間
麻疹	4週間
風しん・おたふくかぜ・水痘	2～4週間

あくまで目安です。
かかりつけ医または
接種医に相談しまし
ょう。

予防接種前の注意点

- ①当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わったところのないことを確認しましょう。予防接種を受ける予定であっても体調が悪く思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種するかどうか判断しましょう。
- ②受ける予定の予防接種について必要性や副反応について理解しましょう。わからないことは接種を受ける前に接種医に確認しましょう。
- ③母子手帳は必ず持っていきましょう。
- ④予診票は接種する医師への大切な情報です。責任を持って記入してください。
- ⑤接種当日は医師から、予診や診察の結果、さらに詳しい状況を確認される場合があること、また、予診等の結果、接種に同意した保護者のサインが必要なため、必ず保護者同伴で医療機関を受診ください。

予防接種を受けることができない場合

- ①明らかに発熱（予防接種を受ける際は通常 37.5℃以上をいいます）している場合
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシー※を起こしたことがある場合
※アナフィラキシーとは通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、急に顔が腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。
- ④上記以外に、医師が不適切な状態と判断した場合

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後30分程度は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ②接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種したところを強くこすることはやめましょう。
- ④当日は、激しい運動は避けましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や、体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。診察を受けた場合は、お手数でも子育て支援課へご連絡ください。